

第66次南極地域観測隊に学生が同行

～夏隊・萌芽研究観測：

南極観測用ペネトレータの開発と白瀬氷河および周辺域での集中観測～

9月20日、政府の南極地域観測統合推進本部は、第66次観測隊の隊員26名および同行者（※1）14名を追加決定したことを発表し、大学院修士課程2年の濱島 岳さんが同行者として選出されました。

濱島さんは、立命館大学の佐伯 和人教授に同行し、JAXA宇宙科学研究所(ISAS)の田中 智教授が代表を務める「南極観測用ペネトレータの開発と白瀬氷河および周辺域での集中観測(萌芽研究観測)」のメンバーとして参加します。

【ポイント】

- 本学からの観測隊・同行者選出は3年連続。
- 地震計などの観測器を搭載した「ペネトレータ」(※2)を上空から落下させて地表(氷)に差し込む方法で設置し、氷河の流れと崩落などの動きを観測する計画。
- 観測器には、他の研究機関の各種センサーとともに、本学が開発したインフラサウンド(※3)センサーが搭載される。
- 濱島さん自身が開発した機器による観測も行われる(右図)。



(氷震から発生するインフラサウンドを観測する記録装置)

濱島さんは12月初旬に出国、フリーマントル(オーストラリア)で南極観測船「しらせ」に乗船、昭和基地へ向かいます。来年2月中旬～下旬に帰国予定です。

※1：技術者、大学院学生、報道関係者、教育関係者など、観測事業の発展や国民の理解増進等のために観測隊に同行する者。

※2：直径約10cm、全長約60cm、重さ約10kgの先端の尖った貫入装置

※3：人間の耳には聞こえない周波数 20 [Hz]以下の超低周波音で、周波数が低いため長距離伝搬できる特徴がある。火山噴火、地震、津波、落雷、土砂崩れ、大規模爆発などの災害をもたらすような事象によって発生することが知られており、これらをリモートセンシングすることで、災害の早期探知や規模解析を行うなど、減災に活用できると考えられる。



(これまでの南極での実験風景)

【広報に関するお問い合わせ先】

高知工科大学 広報課 上原、前田

TEL.0887-53-1080

E-mail : kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp